



いわて教育総研ブックレット 先生を続けようと思っているあなたへ ～こんなときどうする？～



いわて教育総研ブックレット

先生を続けよう  
と思っているあなたへ

～こんなときどうする？～

岩手県教職員組合・岩手教育総合研究所

岩手県教職員組合・岩手教育総合研究所

---

先生を続けようと思っているあなたへ

～こんなとき、どうする？～

---



## 刊行の趣旨

岩手教育総合研究所  
所長 佐藤 淳一

学校で子どもたちと日々向き合っていると、目の前に様々な問題や課題が現れます。そして、その問題や課題をどう解決したら良いかということは、多くの場合、必ずしも正解がはっきりとはしていなかったりします。こんな時、まだ学校に勤め始めたばかりでも、かなりの経験を重ねたベテランでも、教員としてどう子どもたちの問題や課題に向き合ったら良いのか深く悩みます。また、時には「指導」が上手くいかずにどうしたら良いのかわからなくなって、自信を失ってしまうこともあるかもしれません。

かつて多くの先輩たちは「こんなときどうする?」といった状況に陥ったとき、失敗を恐れずに実践に挑戦し、その実践を多くの仲間と議論し検討することで困難な状況を乗り越えてきました。ところが、最近の子どもたちの状況を見聞きすると、「こんなときはどうしたらいいのだろうか?」という事例がますます増えてきているのではないかと思います。そして中には、経験の通用しない想定外の事例にも遭遇することがあるような気がします。

では、そんな状況の時にはどうしたら良いのでしょうか。どんなに優れた教育書を読んだとしても、そこに書かれた実践が上手くいくとは限りません。何故なら、目の前の子どもたちは本の中の子どもたちとは違うからです。しかし、だからといって問題や課題の解決を諦めるわけにはいきません。子どもたちの現状をしっかりと把握・分析した上で、問題や課題の克服・解決を子どもたちと一緒に追求するその過程こそ、教育の営みの希望が見えるような気がします。

このブックレットでは、子どもたちに関わる問題や課題の具体例をいくつか取り上げ、その問題や課題に自分だったらどう向き合うかを執筆者の方々に書いてもらいました。いつでも、どこからでも読める内容となっていますし、職場やグループで読み合わせできるようにもなっていると思いますので、ぜひ活用していただければと思います。きっと、先生を続けたくなるヒントがたくさん詰まっているはずです。

## 目次

Q1 4月 つながりが希薄な学級の担任……………3	
A1 学級につながりをつくる (小野寺 幹夫)	
A2 子どもの力を借りて進もう! (青野 大祐)	
Q2 4月 指導を受け入れない子……………6	
A1 それにはわけがあるはず (小野寺 真記子)	
A2 指導を受け入れるって? (渋谷 洋太)	
Q3 5月 子どもがバラバラ……………9	
A1 何がバラバラなのか (小関 高博)	
A2 つながりたくなればつながる (成田 千夏)	
Q4 6月 授業が落ち着かない……………12	
A1 周りの子から見える世界 (佐々木 亜沙子)	
A2 原因探しをする? (佐藤 大樹)	
Q5 7月 保護者からの電話……………15	
A1 母は何を求めているの? (石川 由美)	
A2 どこですれ違ったのか (田屋 保子)	
Q6 8月 学年長の圧がすごい……………18	
A1 応答を先に決めておく (伊藤 成哉)	
A2 相手が何タイプか見極める (吉田 詩惟)	
Q7 10月 乱暴な生徒への対応……………21	
A1 何が問題か (新井 史絵)	
A2 何をいつ誰と考えるのか (成田 千夏)	
Q8 11月 何から始めようか……………24	
A1 何が何でもあなたを守る (青野 大祐)	
A2 事実確認と仲間探し (佐藤 淳一)	
Q9 2月 学ぶとは?学習とは?……………27	
A1 学校では教えてくれない〇〇 (吉田 詩惟)	
A2 見た目じゃないって証明 (田屋 保子)	

## Q1 4月 つながりが希薄な学級の担任

3月末、校務連絡のため4月から勤務する小学校へ出向くと、驚いたことに6年担任だと聞かされた。初めての学校と地域。1年間の見通しも立たない中、小学校生活の最後を迎える子どもたちとどのように過ごすのか。5年生のときに、いじめ事案やトラブル等もあったらしい。考えれば考えるほど、不安は尽きなかった。

4月、男子8人女子7人合計15人の6年生と出会った。精いっぱい笑顔とパフォーマンスで学級びらきをしたが、クラスの反応は薄かった。休み時間になると、男子は、運動神経抜群で児童会長の明彦の周りに集まって談笑し、ときどき翔太を挑発して反応を楽しんでいる。女子は、郁美の周りに数人が集まって楽しそうに話している。その様子をじっと眺めている和美。玲子と博美は、いつも腕を組んで歩いている。自閉症で感情のコントロールが苦手な弘毅は、自分の好きなアニメキャラを私に紹介してくれた。トラブルこそ起きなかったものの、子どもたちのつながりの希薄さをひしひしと感じた初日だった。

授業では、下を向いている子が多く、やる気が感じられない中、明彦や弘毅は積極的に手を挙げて授業に参加してきた。女子は、誰も話そうとしない。外国語でフルーツバスケットをやったときのことである。イスに座れず最後まで残った弘毅が翔太の膝の上に座ったので、私は「そこに座ったらダメだよ。」と、声をかけた。すると、「こいつがここにいるのが悪いんだ!」と大声で怒鳴り出し、教室の隅に行き泣き始めた。あっけにとられている私をよそに、子どもたちはフルーツバスケットを再開。

果たしてこれからどうなっていくのか。  
不安は募るばかりだった。



## A1 学級につながりをつくる

人と人がつながるには、どうしたらいいか。一言でいうと、一緒に何かをすればいい。いくら同じ学級にいても、同じ班にいても、座席が隣同士でも、何もしなければ仲良くなつていけない。バスで隣の席に座った人と、アパートで隣の部屋に住んでいる人と、それだけのことで仲良くなれるか？ 私は、難しいと思う。その人と仲良くなったり、つながりをつくったりするには、一緒に活動をして、相手がどんな人かを知り、自分がどんな人かを知ってもらえば、その一歩を踏み出せるのではないだろうか。

では、いったい何をするのか？何でもいいわけではない。子どもたちの要求に沿った取り組み(活動)であることが大事である。学級びらきで反応が薄かったこと、休み時間にトラブルさえ起きずつながって遊べないこと、授業ではやる気が感じられないこと。これらの実態から、集団の中で「自分」を出せず、学級(学校)生活への「あきらめ」の意識をもつ子が多いと感じられる。こんな時こそ一人一人の願いや要求をじっくりと汲み取ることが大切だ。そして、その要求に沿った目標を立て、達成するための取り組みを考えて実践する。それを総括(振り返り・まとめ)する中で、翔太の、和美の、弘毅の、一人一人のがんばりが見えてくるだろう。これを繰り返して実践していくことで、もめながらも、つながりはより深く、より強くなっていくにちがいない。

楽しい事(お楽しみ会、〇〇パーティーなど)を盛り込んだ取り組みから始めてみよう。そして、「つながれた」と思ったことをどんどん価値づけていこう!子どもたちがトラブルを起こしながらも、きつとつながっていくことだろう。

【小野寺 幹夫】

- 先生一人で突っ走らないこと。振り向くと誰もいないということがある。
- 班長会で教師と一緒に考えることで、彼等はその子との関わり方を学ぶ。
- 一人ひとりとの対話は、手間ひまかかるけど、トラブルの対話を大事に!

## A2 子どもの力を借りて進もう！

転勤して来たばかりなのに6年担任。これは、けっこうシンドイ。6年生と言えば、最高学年という看板がもれなくついてくる。何をするにも「ここは6年生に……。>

また、見方を変えると、この状況が実践に有利な場合もある。例えば、「学校を知らない」＝「例年を踏襲しない」というスタンスに立つことが可能だ。名付けて「知らぬが仏作戦」である。自分のこれまでの経験や考え方を軸に、堂々と実践を展開してしまうのだ。おそらく子どもたちは、「去年まではこうだった。」「そんなのやっていいの？」みたいな反応を示すだろう。しかし、すべてを新たな学びへの挑戦ととらえれば、好奇心をもって意欲的に取り組むはずである。きっと、その新鮮さが魅力となり、担任への信頼へとつながっていくにちがいない。

当然、子どもたちの思いや要求に耳を傾けることも必要である。このクラスの様子をみると、個性豊かな子どもたちの姿が浮かんでくる。クラス替えのない小規模校ゆえに、人間関係の固定化もあるだろう。遊びでも行事でも構わない。班を軸とした多様な活動に取り組ませることで、子どもたちが互いに「出会い直し」できる機会をつくってあげたい。卒業を迎えるその日まで……。 【青野 大祐】

- 分からないことは、子どもに聞く。率直に「教えて！」と聞く。
- 困ったときこそ「子どもの力」を借りて物事を進める。
- 班を軸とした活動に取り組ませることで、「出会い直し」の機会をつくる。

## Q2 4月 指導を受け入れない子

私が担任するクラスは、5年A組。男子12人、女子13人の合計25人。引継書を見ると、気になる児童がいた。それは、学習放棄で名の知れた真琴だった。

学級開きの日。始業式を終えて教室へ行くと、ランドセルを入れるロッカーにお尻を突っ込み、まるで収納されたエイリアンのようにになっている真琴がいた。その顔はうつむき、まるで眠っているかのようだ。

私が教壇に立った姿を見て、隣の席の真由美が彼のもとへ行き、軽く手を引いた。すると、その手に導かれるかのようにロッカーから抜け出し、自分の席に座った。「座るんだ…。」私は心の中でつぶやいた。

その後、私と子どもたちとの自己紹介タイム。出席番号順に発表していくと、真琴の番になった。私は、みんなと同じように「はい、次の人！」と笑顔で呼びかけた。すると、「オレ、そういうのやらない。」とあっさり拒否された。

翌日から授業が始まった。ほとんどの子どもたちが緊張した様子で準備する中、真琴は何の道具も出さない。周りの子どもたちが声をかけるが無視。先生はどうするのかと、緊迫感と期待感が教室に漂った。

真琴は、折り紙が大好き。ある日、「ねえ。折り紙置いてよ。」と私に要求してきた。ここで恩を売っておくのも悪くない。そう考えた私は、早速、折り紙を買ってきて教室に置いた。それを使って、楽しそうに折り紙を折る真琴。昼休みの私の机の上には、折り紙のカングルーが一匹立っていた。

さて、こんな真琴と、どうつきあっていったらよいものか……。



## A1 それにはわけがあるはず

もしもこの後、真琴を指導の枠に当てはめることに必死になってしまったら…。そんなことをしたら、真琴は、ますます嫌悪感を強め、無気力になり、場合によっては攻撃に転じて、学級は困難な状況に陥ることだろう。

行動には、理由がある。解決の鍵は、「なぜそうしているのか？」を考えること。

真琴の「オレ、そういうのやらない。」という言葉は、逆説的に真琴の要求を示している。「今までの指導は、自分の思いを押しつけていただけではないか」ということに問題意識をもつことができたなら、状況は前に進むだろう。そう、多くの子は、自分の押しつけに忤度し、合わせてくれていただけなのかもしれない。

真琴が拒否する「そういうの」とは？真琴が様々なことを拒否し、今に至るまでどんな歴史があったのだろう。そして、真琴の本当の願いは？それを真琴の言葉から、行動から、語りかけへの応答から、周囲の子との関わりから探っていく。

折り紙の要求、折り紙のカンガルーを担任の机の上に置いた真琴の行動には、「僕の思いに気付いて欲しい」という、無意識かもしれないが、真琴の思いが感じられる。これは、チャンスだ。真琴に歩み寄り、真琴とつながる糸口を見付けたい。

一人で立ち向かわなくてもいい。解決の鍵は、きっと学級の子どもたちが一緒に見つけてくれる。真琴を導いた真由美。真琴を批判せず、緊張感と期待感で見守る子どもたち。「真琴は、本当はどんな思いや願いをもっているのか」「真琴の願いと5年A組のみんなの願いを叶える学級を、みんなでどうやって創っていくか」それを一緒に見つけていきたいという思いを、子どもたちに伝えよう。それが伝わったなら、5年A組の子どもたちは、その答えを探すこれから一年間のこの学級の旅を共に歩んでくれるだろう。

【小野寺 真記子】

- 「なぜ、そうしているのか？」「その子の本当の願いは？」を考える。
- 子どもとの対話から、焦らず、時間を掛けて、その子の願いを引き出す。
- その子と学級の皆の願いを叶える学級を、子どもたちと共に創っていく。

## A2 指導を受け入れるって？

### 1. 好きなことでつながりをつくる

「このカンガルー、誰が作ってくれたの？真琴くん？ありがとう！これ、どうやって作るの？」と話すと、興味をもつ子が出てくる。「すごいね。」「私は作れない。」などと、自分が作ったものが認められるのは、うれしいものだ。折り紙を通して、コミュニケーションをとることを大切にしていく。時間があるなら、休み時間に折り紙を作るクラブを作ってもいいだろう。活動していく中で、どうしたら活動がうまくいくか一緒に考えながら指導していきたい。

### 2. わからないことは、子どもたちと一緒に考える

「どういう時に、真琴はロッカーに入るのかな？」と、班長やクラスの子どもたちのおしゃべりの話題にして、一緒に考えるようにしたい。手を引いてくれた真由美には、「あのときありがとうね。先生、どうしていいかわからなかったよ。ところで、なんでロッカーに入っていたかわかる？」と尋ねれば、きっと「朝は苦手みたいで…。」「真琴は、遅くまで習い事をやっているんですよ。」など、私たちが知らないことを話してくれることだろう。一緒に真琴を理解していく中で、教師も真琴を知ることができるし、子どもたちも教師の姿勢を見て、真琴への接し方を考えることができるだろう。

### 3. 先生も一緒に活動する。

「この作り方教えてよ。先生もやってみよう。」「いいですよ。」なんて会話をしながら、一緒に活動することを通して話す機会を作っていきたい。先生対子どもという関係ではなく、人と人との関係を構築していくことで、指導を受け入れる時間を見つけていきたい。

【渋谷 洋太】

- ロッカーに入る意味、原因の追求、彼に指導が通じたのはどんな時か？探したい。
- 「これできるのすごいよ」という言葉で、真琴だけでなく全員が前向きに取り組める環境をつくる。できないことや遅いことより、できたことを広げる。

## Q3 5月 子どもがバラバラ

中学校2年生の時にクラス担任の指導に反抗的な態度の生徒が何人かいて、それもあってクラスがまとまらない状況ができてしまい、3年生は新しいクラス担任が受け持つことになった。

クラスのリーダーがみんなを引っ張っていける状況にはなく、2年生担任に反抗的だった何人かの生徒が、いわゆる「ウラのリーダー」的な存在となっていた。2年生担任は熱心に指導はしていたが、どちらかといえば学校のきまりを(管理的に)守らせるということを重視していたようだ。

3年生最初の行事である5月の体育祭に向けた選手決めでは、運動の得意な生徒や発言力の強い生徒を優先して選手が決まりそうになり、運動の苦手な生徒や不登校の生徒には、みんなのやりたくない種目が押し付けられそうな状況があった。

そのような状況下で、新担任は、卒業までに生徒たち自身が話し合いながら、目標に向かってクラスのまとまりをつくっていけるように取り組んでいきたいと考えていた。

反抗的な態度をとる生徒たちが、クラスの取り組みに前向きに参加できるようになるために、そして、リーダーを中心にクラス全体で課題や対応策を共有しながら、一人ひとりが認められるようなクラス集団を育てていくためには、どのようなことが必要だろうか。

また、体育祭に向けてみんなが納得して選手決めをするには、どのようにしたらよいだろうか。



## A1 何がバラバラなのか

2年生担任に反抗的だった何人かの生徒は、はじめからそういう生徒たちだったのでしょうか。なぜ反抗的な態度をとるようになっていったのか。それはそれで生徒たちの何らかの要求だったり、訴えだったりするのかもしれませんが。それに耳を傾けず、向き合うことをしないまま一般的な注意や心がけ的な指導を管理的に継続していると、生徒たちって往々にして無気力になったり反抗したり、教師から徐々に心が離れていったりして指導が通りづらくなる…なんてことがよくありますよね。とはいえ、過去のことをあれこれ考えている余裕もありません。ものを言える生徒だけの決定で物事が進んでいくことを目の当たりにして、先生が黙っていることは、さすがに他の生徒たちからの期待と信頼もなくなってしまうので、「それでいいの?」という問いかけはしなければいけないですよね。一時的に文句が出ますが、それはまずしょうがない。そのことと合わせて教師がしなければならないことは、学級の分析と子どもたちの「本音」に接近する方策を考えることです。学級には「反抗的な態度が目立つ生徒」「反抗的な生徒と一緒にいることが多いが、付き合い合っているように見える、もしくは近くにいた方が自分を守るからそばにいと感じられる生徒」「このままじゃダメだと強く思っていて、時々ちゃんと正義を主張し行動しようとするが、いまいち受け入れられずやきもきしているリーダー」「無関心をよそおい、関わらない方が自分のためとウラのリーダーの言うことに何も言わず、流されてしまっている生徒」など、状況によってはもっとあるかもしれませんが、学級の状態を分析すると、学級を構成する生徒たちそれぞれの「立ち位置」が見えてくるので、それは誰々なのかを考えてみましょう。

学級がバラバラに見えるのは、それぞれの立ち位置の生徒たちの思いが、何か共通の目標やゴールに向かう気持ちでつながっていない、または、つなげることが難しい状況だからだと思えます。では、生徒たちの立ち位置の「本音」に迫り、先生と一緒にめざす学級に向け努力してくれそうなのは、どの立ち位置の生徒ですか? それはやっぱり勇気を持ってリーダー的言動をやっている生徒たちです。その生徒たちと語る中で、次に自分たちの気持ちを理解し、勇気を持って誰かに関わってくれる人は誰か? 少しずつ共感の塊を大きくしていけば何かが変わってくるかもしれません。そして反抗的な生徒たちの本音も巻き込んだ取り組みや行動が組織できれば、学級は大きく変化していくのだらうと思います。もちろん言葉でいうほど簡単なものではないですけどね。でも、あきらめず、まわりの先生方の力も借りながら前進していきましょう。

【小関 高博】

- 学級の分析と子どもたちの「本音」に接近する方策を考える。
- 先生と一緒に努力してくれそうな立ち位置の生徒とつながる。
- 反抗的な生徒たちの本音も巻き込んだ取り組みや行動を組織する。

## A2 つながりたくなればつながる

「体育祭取り組みが始まってから聞くのもなんだけど、みんなの体育祭の目標って何なの？」生徒たち自身が話し合いながら、目標に向かってまとまっていけるようにしたいんですね。じゃ、今からでも確認しましょう。

「勝つこと」なら、やりたいやりたくないではなく、誰がどの種目に出たら勝てるのか、本気で考えて決めたら？「クラスで協力すること」なら、そんな早い者勝ちみたいな決め方ではなく、みんなに希望を聞いて、譲り合ったりじゃんけんしたりして決めたら？「楽しむこと」なら、すでにやりたくない種目を押し付けられそうになっているけど、それでいいの？こんなふうに目標から考えれば、きっと「今の決め方は合っていない」と、生徒たちも気付くはず。

「ねーねー、さっきはなかなかの態度だったけど、どうしたの？」反抗的な態度をとる生徒たちは、何に、なぜ、反抗しているのですかね？反抗するってことは、不満がある。不満があるってことは、こうしたい・したくないという希望があるってことですね。その希望に沿ったクラスの取り組みなら、教師が言ったことに何も疑問を持たず取り組む生徒より、よっぽど「前向き」な参加ができるはず。落ちついた頃に聞いてみましょう。

「分かるわー。私もどうにかしたいけど。ねえ、一緒にどうすればいいか考えてくれない？」反抗的な態度をとる生徒たちに、他の生徒が働きかけるってハードルが高いですね。だからまず、教師がつながることから始めませんか？ウラでも力を持っていることに変わりはありません。その力がオモテで使われたら、本人も周りも、徐々に変わっていくのではないのでしょうか？

【成田 千夏】



- 何度でも目標に立ち返り、目標のための活動で生徒をつなげる。
- 生徒の間に溝があるなら、教師が入ってつなげる。
- 対話の第一声は、叱責や否定よりも、疑問や共感から。

## Q4 6月 授業が落ち着かない

休み時間が終わったにもかかわらず、5分も遅れて教室に戻ってきた3人組。注意すると雰囲気が悪くなるので、我慢して普通に授業をしていたが、戻ってきて、まだしゃべっている。教科書も出してない。

「授業が始まって何分たった？遅く来て騒ぐのは、良くないんじゃないか。」

ちらっと私を見たが、また後ろを向いてしゃべりだす。準備しようとするが、他の子が止める。

「もう始まっているから教科書を出して。」

「はっ？別に。かんけーねーし。」

いつもの口ごたえのやり取りの間に、他の子もザワザワし始める。

「静かにしてください!」

いつもの女子が注意してくれることが心の拠り所だが、最近は女子に対して、3人組が乱暴になってきたので、注意する子が減ってきた。

運動会から、学級がザワザワして来たことは、自分でも分かっていた。

「しつこく、負けないで注意して。子どもと教師の根競べだよ。」

相談した先輩から、こうアドバイスされた。だから、とにかく注意した。にらまれても、出て行かれても注意し続けた。書店でベストセラーになっている「若い先生の指南書」の通り、毅然とした態度は曲げなかった。

そんなある日、注意してくれる女子から「話がある」と言われた。

「先生がちゃんと注意しないから、3人組が調子に乗っています。これでは、静かに授業ができません。前の先生はもっと怖くて、怒っていました。先生も、もっと怒ってください。あの3人組は、別室で授業を受けさせてください。」

あーこうやって真面目な子どもたちまで、私から離れて行ってしまうのか。

何が間違っていたのだろう。

もうどうすればいいんだろう……。





## A1 周りの子から見える世界

この子たちは、男子3人組ですかね？ 問題だと思っている子たちを気にしてしまいがちですが、ちょっと大変だけど、その男子たちを注意しながら、周りの子どもたちの発言や行動、表情に目を向けてみてください。男子3人組と教師のやりとりを見て、ザワザワが起きました。それを受けて、いつもの女子は注意をしました。そのとき、周りの子どもたちはどう反応していましたか？「そうだよ、そうだよ！」って感じだったのか。「ああ、まただよ。どうにかならないのかな。」って感じだったのか。「私には関係ない。」だったのか。それとも、「おお、〇〇たち（男子3人組）やれやれ！」だったのか。

さらに、普段もよく観察してみて、クラスの間関係の相関図を書いてみてください。これが、けっこう書けないもので、そういう自分に気づくことも解決に向かう大きな一歩になります。相関図を書くと、男子3人組のことを分かっているような子、注意する女子たちのことを分かっているような子が見えてくるはず。その子たちに話を聞きましょう。

男子3人組は、授業以外はどんな様子なのか。女子との普段の間関係はどうか。そして、注意される男子たち、注意する女子たちのことをどう思っているのか。学級をどうしたいと考えているのか。教師と話を聞いた子どもたちの間で、重なる思いがあるはず。そこに、解決のヒントがあると思います。そして、一緒に問題について考えてみてはどうでしょうか。

【佐々木 亜沙子】

- 注意される男子たち、注意する女子たちの言葉、タイミング、キッカケ、目線、細かいことを観察すると、始まりや広がり、終わりが見える。
- その時の「周りの子どもたちの発言や行動、表情」にも目を向けてみる。
- クラスの間関係の相関図を書き、注意される男子たち、注意する女子たちを分かっているような子に話を聞く。

## A2 原因探しをする？

### 1. 対話から・会話から背景の分析（子ども分析）をしよう!!

運動会が終わり、大きな目標がないまま進んだり、ただやらされるだけの運動会だったりすると、子どもたちもフラストレーションが溜まってくる。まずは、子どもたちと「何で」「どうして」と、子どもの今思う背景を分析しよう。

T「最近 A 君どうした？元気すぎじゃね？」 A「いや…勉強したくないっす。」

T「分かる！俺もだ。」 A「先生も？(笑)授業分かんないんすよ…。」

T「Bは？」 B「俺は集中できないっつーか…。楽しいことしたいです。」

T「いいね!!やろうよ!!」

T「Cは？」 C「俺は、AとBと仲いいんで、それで一緒にやってます。」

などなど、落ち着かない原因は多様である。頭ごなしに「集中しろ!」「いいからやりなさい。」では、やるわけがありません。まずは、原因を聞く。そして分析。

### 2. 周りの子どもたちの要求・願いも聞こう!!

T「みんなは、どう思ってるの？どうすればいいかな？」

と、話題に出して一緒に考えるようにしたい。学級は、A・B・C だけではないからだ。周りの子どもたちも A・B・C を知ることができるし、一緒にできることを考えることもできる。

### 3. 一緒に考え、子どもの要求や願いを実現できる環境を!!

T「一緒にどうしていくか考えていこう。」「楽しい活動を計画してみよう。」

と、子どもたちに問いかけ、子どもの思いを聞き、どうしていくかを共に考え、実行できる場をつくろう。また、みんなとの共有体験を通して人と人をつなぐことで、問題の原因や子どもたちのモヤモヤが解消されていくこともあるだろう。

【佐藤 大樹】

- 原因や問題は何か。子どもによって理由は様々。まずは、子どもたちと対話・会話。
- 子どもが「先生が話を聞いてくれる。」と思える教室をつくる。
- 子どもたちが望む活動や場の設定をする。

## Q5 7月 保護者からの電話

「うちの幸子が、多香子ちゃんに『外されている』と思うんです。くわしく話さないの分からないんですが、『睨んでくる』とか『走って逃げる』とか『仲のいい子を取っていく』って、ポツポツ話してくれたんですが……。事情を聞いてもらえますか？」

初めて保護者から電話が来た。緊張したけど、精一杯対応しようと思った。

翌日、朝から自習にして、廊下に呼び出して聞いた。

「幸子ちゃんさあ、なんか多香子ちゃんに外されてるんだって？昨日、お母さんから電話来たよ。」「えっ、それ勘違いです。」「えっ、お母さんがそう言ってたよ。多香子ちゃんが睨むとか、逃げるとか……。」「やめてください。そんな話。そうやって呼び出されたら、また私、変な目で見られるじゃないですか。先生のせいですよ。」

こう言って幸子は泣き出し、もう何も言わなくなった。なんかおかしい……。続けて多香子を呼んだが、うつむいて「やってない」としか言わなかった。その後一日中、幸子は机で本を読んで過ごしていた。

夕方、幸子の家に電話すると、お母さんが出て、「これ以上もう結構です。」と言われた。冷静を装っているが、怒っているように聞こえた。

翌日、幸子の母から副校長に電話があり、学年長と校長室に入っていった。しばらくして呼ばれたので、手帳を持って走って校長室に向かった。

「幸子さんのお母さんは、担任に不信感を抱いている。今後は学年長も一緒に話を聞くように。」と指導を受けた。どうやら私の話の聞き方が悪くて、幸子は家で泣いてしまったようだ。

「もう学校に行かないと言っている」と。

何がいけなかったのだろうか。



## A1 母は何を求めているの？

母が学校に電話をかけようと思いつくとき、腹を決めて受話器をとっていることが多いでしょう。「これって、いじめ?!」「先生は、気づいてるの?」「親の私が幸子を救わなきゃ。」「あ、でも、モンスターペアレントって思われるかな。」「いや、そんなこと言ってる場合じゃない!」学校の電話番号を確認し、プッシュする指に力が入り……。多香子がどんな子か、もしかしたら顔さえも知らない母は、どんなことでもいいから様子が知りたいと思っているし、とにかく幸子の話を一度聞いてほしい。きっとそう思っているはず。

まずは、自分の頭のドライブレコーダーを起動させ、5分休みや昼休みの彼女たちの表情を思い出すことから始めます。楽しそうに笑っている顔しか浮かばない。そんなときこそ要注意。私の知らない世界があるはずだから。

給食前に手洗い場に行く幸子を見つけたら、直ちにとりの水道を陣取って、「あれー、風邪ひいた?なんかさー、幸子さん元気ないなあって思って、気になってたんだよねー。」と、石けんを泡立てながら声をかける。そこで、何もないと言われたら、「そっかー、私の気にしすぎかなー。ずっと気になってたんだけどさ。」と、種をまいて。

何もリアクションがなければ、昼休みに再トライ!「やっぱり気になることあるんだよねー。ちょっとだけ、昼休みに話してもいい?」と切り出す。母から電話があったことはノータッチで。話してくれたら、「ごめんね。今まで全然気づいてなくて。苦しかったんだね。これからのこと、一緒に考えよう。」と必ず謝る。そうすれば、きっと、母と次に話す道が開けることでしょ。 【石川 由美】

- 親は自分の子の気持ちをまずは担任に知っていてほしいと願っている。同時に、相手がいる場合、相手の親も同様に考えていると想像する。
- 「睨む、避ける」には必ず理由がある。まずは、話を聞くことを第一に。
- 本人たちの「どうしたいか」をつなげ、叶えることに全力を注ぐ。

## A2 どこですれ違ったのか

「精一杯対応しよう」というのは、誰のためですか？ 自分が何とかしようと思っ  
ていませんか？ そこが大きなすれ違いではないですか？

母親の話だけで動くのは、とても危険。本当に事実なのかを確かめなければなり  
ませんが、みんながいるところで呼び出すと、いかにも何かがあったと子どもたちに  
教えているようなもの。子どもたちは警戒します。聞くタイミング、場所、状況を考え  
て慎重に動きましょう。まずは観察から。母親にはデリケートな問題なので時間がか  
かることを伝えましょう。おそらく母親が担任に電話したことを幸子は知らないはず。  
そして、母親も慎重に進めてくれると思っているはず。子どもたちの動きを観察しつ  
つ、自然に二人きりになる状況をつくって話を聞くなど、シチュエーションを考えまし  
ょう。また、幸子が信頼している友達や周囲の子どもたちから情報収集するのも一つ  
の方法です。幸子と多香子の間に何ががあったのか、正確にわかるまでは大っぴらに  
動くのはタブーです。

初めて対応するときには、頼りになる先輩の先生に聞いてみましょう。一人で対応  
せず、いろいろな角度から見てもらうと、ベストな動き方が見えてきます。子どもたち  
は子どもたちなりに解決方法を探っていますので、急がず  
子どもたちと一緒に進めるようにしましょう。多香子にも  
様々な事情があるかもしれないですよ。どの子にも事情が  
あるのです。

【田屋 保子】



- 聞くタイミング、場所、状況を考えて慎重に事実を確認する。
- 仲の良い友達や周囲の子どもたちから情報を収集する。
- 聞き取り内容や分析が、一人の私見にならないよう、頼りになる先輩の先  
生と一緒に分析してもらう。

## Q6 8月 学年長の圧がすごい

お盆が終わり、2学期が始まろうとしていたある日、子どもと同じように気分  
が重いまま出勤した。

職員室で学年長にあいさつすると、「〇〇と××と△△は？」と怒涛の勢いで  
確認された。確かに全部手を付けたが、これで良いのか分からぬまま、そして見  
通しのないまま進めた仕事だった。

「出来たんなら、今、見せて。」

この瞬間が、正直苦しい。手渡した後の空気だ。

「何か言われるかもしれない。」

「何にも言わないのは、諦められたから？」

「もしかしてミスがあった？」

確認されている時の「圧」がしんどい。

これに一学期は参ってしまい、休んだこともある。

「別に、仕事なんだから当たり前じゃん。」という。分かっている。

「指導を受ける立場の若者なんだから、耐えるの。」という。覚悟はしている。

「あなたの分まで、仕事してるんだよ。」という。ありがたいとは思っている。

そうそう全部分かっている。学年長は、仕事は早いし、段取りもテキパキだし、子  
どもの指示も的確で短い。だけど、だけれども「言い方がキツイ」。

「カレンダー入れて、子どもに見やすいように直して。」

「あと、取り組みの漢字、いつまで間違えてんの？早く覚えなさいね。」

あーきた。これがガツンと心に来る。

仕事ができる素敵な先輩なのは、重々分かっている。

でも、キツイ。

あと半年、耐えられるだろうか。



## A1 応答を先に決めておく

他人の何気ない言葉で傷つくことは、年齢に関わらずあります。その時のことを思い出すと、私って最初っから傷つく準備してる？その瞬間が「来るぞ来るぞ」って、待ってる？ま、逃げたって、結局は「言われる」。んじゃあ、何を返すか、言われる時「自分が演じるキャラ」と「言われた後に返す言葉」を先に決めておけば良いかも。

メソメソ子さん・・・そうです私、いつもミスする、仕事ができないダメ人間なんです。見直し中に自分でミスを見つけた途端に落ち込んで、やる気が無くなるんです。こうやって、尊敬する先輩に間違いを指摘されたら、「もうダメ」になるんです。

ポジティブ夫さん・・・あ、そうでした、前にも言われました。覚えてます。またやっちゃったんですね。すみません。本当に成長しないダメな奴ですね。そんな私を見捨てないでくださる先輩には、感謝でいっぱいです。さらにこうやって毎回細かいところまで見抜いて注意していただけるなんて。先輩と一緒に仕事できて幸せです。

斜めにズレ夫さん・・・ご指摘ありがとうございました。善処いたします。ところで、夏休みはいかがお過ごしでしたか？さぞかし充実した夏だったことでしょう。私は、こんな自分を改善すべく、日夜、「若い教師の～」という名のタイトルの教育書を読み漁って、夏が終わりました。読んでも何をすればいいのかわかりませんでした。

働き方変え夫さん・・・ご指摘の部分は改善します。しかし、勤務時間内に終わらなかった場合は、そのまま提出します。今月の目標は、文書作成時間軽減なので。また、愛すべき家族がいますし、自分を成長させたいので、定時帰宅します。

正面突破夫さん・・・あの～前々から言いたかったんですが、そのキツイ言い方、直した方がいいですよ。影で、「キツ突きさん」って呼ばれてるの、知ってます？

【伊藤 成哉】

- 多様な口撃に対しては、多様な「受け取り方」をすれば良い。聞くキャラを決める。
- 「言いたいことは言えないけど、言うとしたら？」と妄想して、あと半年、耐える。
- 「他人の話を見真面目に聞く暇があるなら、娘の話でも聞いたら？馬鹿じゃない」 BY 妻

## A2 相手が何タイプか見極める

この学年長が「仕事ができる素敵な先輩」になるまでに、きっとあなたが傷ついたようなことを、「先輩」と呼ばれる人たちに言われてきたのでしょう。でも、そんなの知ったこっちゃない。だから、次のような方法をおすすめします。

○ レベル1 【言われたことに、6割で応える。】

- ・ 提出物は、6割で学年長に出しましょう。期限より1日前に。どうせ直されるんですから。さらに、こんな言葉を添えましょう。

「途中なんですけど、ここまでで、『とりあえず』見ていただいていいですか。」

○ レベル2 【相手が気持ちよくなるような質問の仕方をする】

- ・ 「できる」人は、全てを知っていたいという性質があります。(たぶん)だから、報告魔になります。今の自分の仕事の進捗状況を途中で報告し、質問します。「今、ここまで進んでいるのですが……、〇〇先生なら、次、どうされますか。」本当に「できる」方なら、喜んで教えてくれるでしょう。

○ レベル3 【自分はそんな「先輩」にならないと固く決意する】

- ・ 今のつらさって忘れるんです。忘れると、怖いかな、あなたが「仕事ができる素敵な先輩」になったとき、同じことしちゃうんです。だから、そうしないように、〇ケモンマスターみたいに、その先輩の生態を観察し、分析するんです。その人が何タイプの〇ケモンかわかるようになったら、聞いてみてもいいかもしれません。

「どうやって、先輩のように『仕事ができる、素敵な(言葉きつめの)先輩になれるのですか。』」

意外に、聞くも涙、言うも涙の「いい」話が聞けるかもしれません。



【吉田 詩惟】

- 突っ込まれそうな仕事は6割で。締め切り1日前に途中で見せる。
- 『この人はこういう人だからしょうがない。』と思えるまで観察する。

## Q7 10月 乱暴な生徒への対応

中学2年生の2学期のことである。文化祭前に、Yという男子生徒がまわりの生徒を殴ったり蹴ったりするという訴えがあった。どうやら1学期からときどきあったことようだった。

Yは、1年生の頃から乱暴な行動が目立ち、まわりにも迷惑をかけるため、どう接して良いか困る状況がたびたびあったらしい。

2年生から担任した私は、Yの行動に対して、彼のいる班のメンバーだけでは対応が難しいため、困ったときには班長会のメンバーで相談をしてきた。

そのため、班長会メンバーで共同して対応しようとする雰囲気生まれ、1学期には授業中に教室から抜け出すこともあったが、班長会のメンバーで追いかけて、Yを教室に連れ戻すようになっていた。

彼のいる班の生徒たちは、Yがまわりに迷惑をかけるし、文化祭の取り組みにも協力しないため、このまま文化祭の取り組みを進めることに不安があり、正直面倒が見切れないと言う。

このような状況で、Yを排除することなく、学級集団の取り組みの中に入れていくためには、どうしていったらよいか。また、問題や課題があっても、解決策を生徒たちと一緒に考えていくには、どのようにしていけばよいのだろうか。



## A1 何が問題か

Yが乱暴な行動を取るのはどんなときか、把握していないことが問題。中1の頃からあった抜け出しを追いかけ、連れ戻すだけで、誰もYの声を聴いていない。Yが乱暴な行動を取るまでに、Yの中で何が起きているのかを探りたい。

しかし、Yに突然「どうしたの?」と尋ねても、Yが話してくれるなんてことはない。さらに、中学校の場合、学級に担任がいるときにYが乱暴な行動を起こすとは限らない。職員間でも、自分がYを追いかけることを伝え、他の生徒をお願いするなどの下準備が必要だ。

まず、Yを追いかけ、きつと繰り返される数々の暴言を要約して「情報」として受け取りつつ流し、自分は即土俵を降りる。あくまでも自分は穏やかに、近くのを片付けるなどしつつYの様子を探り、Yの気をそらし、拍子抜けするような話題を振って並んで座ってしまう。一緒に草取りをしたり、印刷物を折ったりして、作業を挟んでYとの対話がスタートできたら、Yも自分自身のことを「あの時の自分のこと」として話しやすいのではないかと。

Yは、1年生のときから暴力的なことを繰り返していたのだから、話しやすい環境を作れたとしても、すぐにこの日のことは語れないかもしれない。

「どんなYが出てきてもガッカリしないで聴くよ。」と伝え続け、対話を繰り返すうちに、きつと話してくれる日が来るだろう。それまで、周りの生徒からもYのことを聴きながら、「その時」を待ち続けたい。



【新井 史絵】

- Yの声を聴く。声とは、音声だけではない。目線や顔つき、悪態も。
- Yの声が届く環境をつくる。Yが自分と向き合える場所。
- 焦らず、少しずつYの気持ちを共に整理しながら、声を引き出す。

## A2 何をいつ誰と考えるのか

「面倒が見切れないかあ。じゃあ、見なくていいんじゃない？」Yの対応で疲れた生徒たちに、「そこをなんとか」と頼み込んでも状況はよくなるのでは。Yのことは置いて、まずは自分たちがやりたいことをやらせてみましょう。文化祭取り組みが軌道に乗ってくれば、そのうち頼まなくても「やっぱりYにも参加してほしいな。」と思い始める生徒が出てくると思います。ここで「Yにも参加してもらうにはどうしたらいいかな？」と声をかければ、Yの問題行動から学級の取り組みの課題へと考える視点が変わるのではないのでしょうか。

「Yにも参加してほしい」と誰も言わなかったらって？何としても言わせるんです！そのために、毎日Yのポジティブキャンペーンに取り組みます。担任が一度でも「Yがいなければ」的な雰囲気を出したら、Yも他の生徒も敏感にキャッチしてしましますが、逆によさを伝え続けられれば、きっとみんなに届くはず。

「ねえ、なんで殴ったり蹴ったりするの？痛くないの？」Yを排除することなくという考えは、その通りだと思います。でも、他の生徒の安心安全な学校生活も守らなければと思うと、やはり暴力は見過ごせません。授業中に教室から抜け出したのを連れ戻すくらいなら、班長会のメンバーでも対応できたかもしれないけど、暴力は無理です。私も怖いんです。やめさせないと。でも、暴力だけやめさせても、暴力によって保っていたものが崩れ、別の問題行動が起こってしまう危険性があります。Yが落ち着いているときに、暴力の理由を聞いてみたいです。そして、暴力以外の表現方法をYと一緒に考えつつ、「今、Yと一緒に考えてるよー。」と他の生徒にも伝えていきましょう。

【成田 千夏】

- みんなで考えるのは、Yの問題行動ではなく、学級の取り組みの課題。Yを全体に合わせるのが難しいなら、みんながYに合わせていこう！
- 「暴力」について考えるのは、Yと担任。暴力と、そうしてしまうほどの「苦しみ」は分けて考え、担任は苦しみを聞こう！

## Q8 11月 何から始めようか…

私だって担任なんだから気が付いていた。でも、正直言って、どこから手を付けていいのかわからなかった。

隆は文化祭の練習移動も一人だったし、給食でも誰とも話さず、食べ終わると静かに本を読んでいた。掃除のとき、隆の机を運ぶのは、いつも茜や生徒会役員の清だけだった。「また俺？今度はお前が負けたらやれよ。」と、悪意のある会話も聞いたが、どうやって介入すればいいのか迷っていた。目くばせをして隆を笑っている女子の様子も見たことがある。教育相談として、隆と二人で話したが、「何もしません。」「ってか、先生って何もしないですよね。」と、うつむいてボソッと言われた。

先輩に聞いて始めた班長会は、文句を言いそうな人たちと先に契約をして、自分たちの都合の良いように班を作っていた。これで良いんだろうか？子どもが決めていいことだと思うけれど…。疑問と不安が私の心をよぎった。「あのさ、隆のこと気にならない？」思い切って、班長会に言ってみた。「はっ？先生、今さら何言ってるの？そんなことより、来週からオレの学習委員会のチャイム席取り組みだから、学年3位以内を取りましょう。」「お前が座れば一位になれるよ。」キャッキヤ言って、私の話はあっさり流された。

クラブに行こうとすると、恵子と恵が話しかけてきた。「先生、今日の班長会で先生が言ったこと、私も思っていました。なんか今の班長たちって、何かが違うような気がするんです。何かは分かんないんですけど。先週、隆くんが下校の時ウロウロしていて、靴がないって言うんです。一緒に探そうとしたら、そのまま裸足で帰って行ったんですよ。なんか避けられているみたいで悲しかったです。」

私は何をしなければいけないのか。何から始めていけばいいのか。もうわからなくなっています。



## A1 何が何でもあなたを守る

「先生って何もしないですよ」という隆の言葉が、困惑している担任の胸に突き刺さる。しかし、きっと隆は、その痛みの何倍もの孤独感や失望感に苦しみ喘いできたにちがいない。それ故、自分が潰れてしまう前に周囲との関係性を断ち切り、自分の世界へ引きこもらざるを得なかったのだろう。過去の彼に何があったのか……。

子どもの言葉は、ときにいろいろな意味を含んでいる。この場合、本当に諦め切っているのなら、「何もありません。」で終わったはずである。しかし、隆は、敢えて担任の何もしない行動に言及した。そこには、「何とかしてほしい」という彼の声なき声が切実に響いている気がしてならない。

では、こんなとき私たち教師は何をすべきだろうか。パッと考えられることは2つ。まずは、「何が何でもあなたを守る」というメッセージを隆にしっかりと伝えたい。自信なんかなくていい。担任として、いや、一人の人間として為すべき大事なことである。周囲が彼を孤立させているのなら、敢えて担任が彼と関わる姿勢を示してはどうだろうか。一人になっていたら声をかける。用事をつくって彼に話す。机移動でもめる前に担任が運ぶ。表面的な言葉ではなく、彼に寄り添い、彼を必要としているメッセージを、行動を通して隆だけでなく周囲に対しても示していきたい。

それと同時に、彼の味方となる子どもを見つけ、彼とつなぎたい。恵子や恵は、まさにその存在になり得るだろう。恵子が班長なら、彼女の班に隆を入れ、担任とともに守っていききたいものである。子どもの居場所は、教室や座席でなく「人」である。教室の中に、彼が安心できる居場所を作りつつ、徐々に彼に対する学級の雰囲気を変えていこう。そして、いじめに取り組める班長会を焦らず少しずつ育てていこう。

【青野 大祐】

- 「何が何でもあなたを守る」というメッセージをしっかりと伝える。
- 担任が彼と関わる姿勢を示し、周囲の雰囲気を変える。
- 味方となる子どもを見つけ、困っている子とつなぐ。

## A2 事実確認と仲間探し

「何から始めればよいのかわからない」状態とのことですが、11月からでも（いつからでも）できることはあると思います。わからない時は原点に戻って、どこに向かって行けばよいのか考えてみましょう。

原点の1つめは、「どんな学級にしたいのか」ということだと思います。隆が（学級の他の誰であっても）仲間はずれやいじめにあってもいいと考える担任はいないと思います。また、表現の違いはあっても、誰もが居場所として安心できる学級をめざすことを掲げて、生徒たちの学級目標は設定されることがほとんどではないでしょうか。目標を決めただけでなく、常にそれに照らして現状を考え合っていくことなしには、そこにたどり着くことは困難です。担任としての思いも対等に主張しながら、理想の実現に向けて考え合っていく中で、良識ある生徒たちの主張も強くなっていくはずですし、「競争主義」に陥ることも防げると思います。

原点の2つめは、生徒たちの良識を信じて力を借りるということだと思います。茜、清、恵子、恵のような生徒は、どの学級にも必ずいます。彼らの力を借りて、隆のまわりにどんなことが起きているのか、正確に事実の把握をし、客観的に分析しましょう。もちろん、隆から直接状況を聞くことができればそれもよいのですが、担任が隆との関係づくりが十分にできていない場合は、彼らの力も借りましょう。隆の状況を気にかけてくれている彼らであれば、きっと正しい見方・考え方で行動してくれると思います。自分がひとりではないことがわかれば、それは隆にとって大きな支えとなるはずです。

【佐藤 淳一】

- 学級づくりは、いつからでも始められる。「できること、やるべきこと」を探そう。
- 「こうありたい」という願いを目標にし、それを共有する。どこに向かっていくのかを決めて、役割分担をする。子どもと保護者と、教職員で分ける。
- 子どもの本来持っている良心的な心、「こうなりたい」という願いを引き出す。

## A9 2月 学ぶとは？学習とは？

3学期、最後の授業参観後の懇談会での出来事である。

「子どもから聞いていた以上の立ち歩きとうるささでした。こんな状況になるまで、誰も2組を手伝わなかったんですか？先生一人で頑張ってもねえ・・・。」  
懇談会では、お母さん方の悲しそうな顔に目を向けられず、下を向いていた。

「いやいや、別に先生を責めているわけじゃなくて。だって先生はまだ若いし、子どもとも一生懸命遊んでくれるし、いい先生だって言っています。でもねえ・・・。」

「うちの子も先生のことが大好きだって喜んで学校に行くんですけど、こんな状況になっているとは思っていませんでした。」

「あれで学習保障はできているのでしょうか？」

「えっと、良いですか？2年生ってこんなもんだと思って、先生も気楽にやれば良いんじゃないですか。うちの6年生は軍隊みたいに厳しくて、毎日ため息をついています。さっきも6年教室前の廊下はシーンとしてました。だから、ケンカとか万引きとか起こるんですよ。内緒ですけど。やりすぎです。たかが子どもなんですから。」

「そうそううちの4年生もひどかったです。でも2年生はいいですよ、先生。何でかって、授業の最後に先生が『学んだことを使って、練習問題を解いてみよう』って言ったら、全員が座って問題を解き始めたじゃないですか。あんなに立ち歩いていた子も、急に座って『マルツケシテ』って、満面の笑みで大騒ぎでしたけど。」

「確かにそうねえ…。テストの点は悪くないし…。今日も言いたいことを言い合う雰囲気はあったし。」

「うちの子は、家の態度と同じでした。先生のせいじゃないからね。」

学習規律とか、10点セットとか、持ち物点検とか、  
「明日からやり直します！」って言おうと思って始めた  
懇談会だったけれど、保護者の願いはいろいろなんだ  
なあ。分かるとかできるとか、授業とか、集中して授業  
とか、分かんなくなってきた。



## A1 学校では教えてくれない〇〇

教師になって3年目ぐらいまで、学習発表会が嫌いでした。私は、ずっと単級だったから、運動会のような学団ごとの取り組みと違って、学習発表会は担任の力量が如実に出るからです。何とか「上手く」なりたくって、いろんな演劇やらコンサートに通ったり、本を読んだりしたけど、ずっと何か違うような気がしていました。

4年目の学習発表会で、自分の学級の発表を見て、初めておうちの方が泣きました。内容は、戦争物でも、自然災害物でもありませんでした。子どもたちがグループに分かれ、それぞれのパートごとに自分たちでダンスを決め、台本を決め、衣装を考えた劇でした。お涙頂戴のセリフなんかなかったし、むしろ子どもたちは観客の人たちを大笑いさせることを目標にがんばっていました。その劇を見て、おうちの方が泣いていました。前担任たちが泣いていました。そこから、「あーそっかー」と吹っ切れたような気がしました。

「学校では教えてくれない〇〇」という本が世の中には溢れています。あなたも言っていないですか。「大学で学んだことは、教師になって何の役にも立たなかった。」と…。でも、果たしてそうでしょうか。その本を開いてみてください。「え、学校でやってるけどな。」って思うことも多いはずですが、でも、なぜそれらを「学校では教えてくれない」と世の中が思っているのか。それは、学校での学びが生活のどことつながっていて、社会の何と関わっているかという学びのつながりや意義を、教師が子どもたちに気付かせることができているからではないだろうか、と私は最近思うのです。学校での学びを、自分のものとして「つかっている」姿に、おうちの方は安心するのではないかな、と私は思います。さて、そう考えると「45分間よい姿勢で居続けること」や「教師の話黙って聞き続けること」「キャラクターの文房具を使わないこと」は子どもたちにとって必要な学び、学習なのでしょう。

【吉田 詩惟】

- 自分が子どもに「語っている」ことは、子どもたちの世界の何につながるのかを考える。



## A2 見た目じゃないって証明

45分間ずっと集中できるわけがない。2年生ですから話したい盛り。授業中も話したいことがたくさんあるはず。授業を聞いていれば聞いているほど、話したくなるのが低学年です。授業研で立派に手を挙げて、当てたら「忘れました!」と元気に言って座る様子をよく見ます。「立派に座る」=「授業を聞いている」と思ったら、それは大間違い。立ち歩いたとしても、先生のほうを向いていなかったとしても、言いたいことを言えて、練習問題をするときには全員座って取り組み、授業内容を理解しているのですから、学ぶ姿勢はちゃんとできていると思います。

そもそも新しいことを知るのとはとてもワクワクすることです。ワクワクするのにちゃんと座って天井に向かって手を伸ばすなんて不自然でしょ。低学年は、喜びも悲しみも身体で表現します。授業妨害をするときには、対策を講じなければならないと思いますが、動くのは当たり前です。

懇談会で、これだけ議論できたうれしいですね。学びのかたちが変わってきた今、私たちが考え方を変えなければならないと思います。おうちの方々も、我慢することが授業だと教えられてきたのではないのでしょうか。「良いところを伸ばしましょう」と言いつつ、学習規律や10点セットなど、子どもを叱る目安を作る学校が変わらなければならないと思います。

授業は子どもと一緒につくるものですから、学級が安心して間違えることのできる空間になるといいですね。

【田屋 保子】



- 「立派に座る」=「授業を聞いている」ではない。
- 低学年は喜びも悲しみも体で表現するから動くのは当たり前だと知る。
- 学級を安心して間違えることのできる空間にする。

## あとがき

編集委員会

昨今、学校現場は多くの問題や課題を抱えています。その中でも、「指導が難しい子どもたちにどう向き合ったら良いか」という悩みを抱える先生が多いということが聞こえてきています。子どもたちへの指導上の様々な問題や課題は、教職経験の多少にかかわらず、多くの先生を悩ませているのです。それでもなお、先生を続けようと必死にがんばっている方々の力になれば・・・という願いで、本書の編集に携わってきました。

本文中の「Q」は、学校の仕事で遭遇し得る問題や課題を想定し、作成した事例です。また「A」は、その問題や課題に対する対応や指導等を現職の先生方に依頼し、執筆してもらったものです。1つの「Q」に対し、2つの「A」を設けたのは、教職経験や指導方針等の違いにより、対応や指導が異なると考えたからです。よって、本書に示した「A」はあくまで事例に過ぎず、必ずしもお読みいただいた方々の現状やニーズにマッチしているとは限りませんが、解決の糸口になると思っています。

そこで、ぜひ本書を用いて、各地区や職場における学習会やサークル等に集まった仲間とともに、自分の学校や学級を思い浮かべながら「こんな場面に遭遇したらどうする?」と語り合い、困難を切り開く手立てや道筋をいろいろ見出してほしいのです。そのようにして、本書が困難に直面した先生方の一助となれたら幸いです。

結びに、本書の発刊にあたり、多忙な中、執筆に協力いただいたすべての方々に心より感謝申し上げます。

---

●いわて教育総研ブックレット

『先生を続けようと思っているあなたへ ～こんなときどうする?～』

編集委員会：佐藤淳一 青野大祐 伊藤成哉

執筆者：小野寺幹夫 青野大祐 小野寺真記子 渋谷洋太 小関高博

成田千夏 佐々木亜沙子 佐藤大樹 石川由美 田屋保子

伊藤成哉 吉田詩惟 新井史絵 佐藤淳一（\*掲載順）

発行日：2024年2月1日

発行：岩手教育総合研究所

盛岡市大通 1-1-16 岩手教育会館 4F

TEL 019-623-4432

E-mail j.sato8252@gmail.com

印刷・製本：川口印刷工業株式会社

---

\*無断転載・複製を禁じます。